

Title	<紹介>高山善行・青木博史・福田嘉一郎〔編〕『日本語文法史研究1』
Author(s)	坂井, 美日
Citation	語文. 2013, 100-101, p. 161-162
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70926
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

高山善行・青木博史・福田嘉一郎〔編〕『日本語文法史研究Ⅰ』

坂井美日

『日本語文法史研究』は、日本語文法史分野初となる継続誌である。今回取り扱うのは、その創刊号である。

刊行の背景

日本語の歴史的研究は、これまで、「国語学」という伝統分野において継承されてきた。その研究は、日本の有する豊富な文献資料と、それらを適切に扱う文献学的技術、そしてそれらをもとに構築された綿密なデータのもと、帰納的に論を構築するという実証的方法で進められてきた。その手堅い研究によって明らかにされてきた日本語の歴史は、日本語の研究だけでなく、言語そのものの歴史を明らかにする上でも重要なデータを提供しており、世界的に注目を集めている。今日では、国語学分野以外の研究者も日本古典文献を扱うようになっており、日本語史研究は、より開かれた研究分野へと変わりつつあるといえる。

そのような動きに伴い、国語学側も情報を発信する必要がある。すなわち、日本古典文献の複雑な事情、これまでの成果、そして何より国語学側の最新の成果を、他分野の研究者と共有していく段階へと進みつつあるのである。創刊号前書きによれば、そのような時代の要請を受けて、日本語文法史研究の情報を発信することを主眼としたものが、この『日本語文法史研究』である

という。

構成

本書は基本的には論文集であり、創刊号には十本の論文が掲載されている。いずれも、国語学における日本語文法史研究の最新の成果である。

また、本書の特徴のとして、「テーマ解説」「文法史の名著」「文法史研究目録」が付されていることが挙げられる。

「テーマ解説」では、日本語文法史の特定のトピックについて、これまでの研究成果や今後の展望が解説される。チュートリアル的な意図があるとのことであるが、専門家が読んでも十分有益である。

「文法史の名著」というコーナーは、いわゆる書評であるが、名著と称される必読文献を扱う点の特徴である。国語学の基本文献を紹介し、今日の目から再評価をすることが目的であるという、まさに温故知新のコーナーである。

「文法史研究文献目録」は、直近二年間（創刊号のみ三年間）の、日本語文法史の著書・論文のリストである。これは、刊行が停止された『国語学年鑑』に代わるものという位置づけという。

いずれも、日本語文法史の研究情報を発信する上で、非常に有効である。

創刊号目次

『日本語文法史研究の刊行にあたって』

被覆形・情態言・形状言・状態性語基 小林智一

『万葉集』のくムカについて 近藤要司

古代語の動作主標識をめぐって―助詞イと石垣法則― 竹内史郎

モノゾ文による推量表現の成立 勝又隆

中古語指示副詞「かく」の照応用法―「枕草子」「源氏物語」を資料として― 西田隆政

中古語の非接続叙法体系 福田嘉一郎

日本語の過去表現の構造とその変化 黒木邦彦

引用句派生の例示 岩田美穂

モダリテイ形式「ラシイ」の成立 山本佐和子

クル型複合動詞の史的展開―歴史的観点から見た統語的複合

動詞―青木博史

【テーマ解説】助動詞の相互承接 小田勝

【文法史の名著】阪倉篤義著『日本語表現の流れ』 高山善行

日本語文法史研究文献目録2009-2011

索引

執筆者紹介

(ひつじ書房・二〇一二年十二月、二六六頁、四、〇〇〇円)

(さかい・みか 本学大学院博士後期課程・

日本学術振興会特別研究員)